

先月、韓国の朴槿恵大統領と中国の習近平国家主席が北京で顔を合わせた際、この秋に日中韓首脳会談を行う方向で一致した。この3国間の首脳会談が実現すれば、2012年5月13日に北京で開催されて以来、実に3年半ぶりの出来事となる。

過去を遡ると、日中韓の首脳が3国のみで初めて会合を持ったのは、1999年11月のことである。ASEAN+3会合のさなか、当時の小渕首相の呼びかけに、中国の朱鎔基首相と韓国の金大中大統領が応える形で、和やかな雰囲気のも

日中韓首脳会談の再開に期待

年からはASEAN+3会合に付随して行うのではなく、3国の首脳のみが集う単独での開催となり、日中韓協力は新たな段階へとステップアップされることとなった。

この単独開催は日中韓サミットと称され、記念すべき第1回は日本がイニシアチブをとる形で、2008年12月13日に福岡で行われた。その後、日中韓サミットは3国が持ち回りで毎年開催されていたが、2012年の急激な日中関係の悪化により、その年を最後に今日まで開かれることはなかった。

今回、日中韓首脳会談が予定通り行われるとすると、2013年と2014年の不開催の年を除いて、通算で第6回目の日中韓サ

ミットと称され、記念すべき第1回は日本がイニシアチブをとる形で、2008年12月13日に福岡で行われた。その後、日中韓サミットは3国が持ち回りで毎年開催されていたが、2012年の急激な日中関係の悪化により、その年を最後に今日まで開かれることはなかった。

今回、日中韓首脳会談が予定通り行われるとすると、2013年と2014年の不開催の年を除いて、通算で第6回目の日中韓サ

3国間FTA 推進の糸口に

とで朝食会が開催された。これが歴史的な第1回目の日中韓首脳会談となったのである。

これを契機として、3国首脳会談はASEAN+3会合の折に開催されるのが慣行となった。2008



名古屋経済大学経済学部准教授

畑佐 伸英

ミットの開催となる。

この会合で期待されることは、やはり、これまで冷えて切っていた日中関係と日韓関係が、少しでも改善の方向へと歩み出すことである。今回の日中韓首脳会談に合わせ、日韓の2国間首脳会談も行う方向で調整が行われている。

安倍晋三首相と習国家主席による日中首脳会談は、2014年11月の北京AP

日本と中韓との関係悪化に伴って、日中韓サミットが開催されていなかった時期でも、日中韓自由貿易協定(日中韓FTA)の交渉は継続されていたことに、経済協力の重要性の意義を感じる。日中韓FTA交渉の開始が宣言されたのは2012年11月であり、第1回目の交渉が行われたのは2013年3月のことである。その後も日中韓FTA交渉は継続的に行われ、これまで8回の会合を開催した。

日中韓3国間の経済活動は非常に活発で、域内貿易の比率は経済統合が進みつつあるASEANをも超える。経済が緊密であるほど経済統合の深化の影響は大きく、日中韓FTAの締結は3国共に大きな経済的利益をもたらすと考えられる。そのようなwin-winの関係をもたらすであろう経済協力の促進は、時に国家間の政治的な軋轢をも凌駕して継続されていくのである。今回の3国首脳会談の再開で、さらに日中韓FTA交渉が飛躍的に進むことにも期待したい。

はたさ のぶひで アジア経済論、開発経済論、国際経済論。名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程。博士(学術)。アジア開発銀行研究所、総合研究開発機構、日本国際問題研究所などを経て現職。1971年生まれ。

